



# 台風19号水害被災地 放射能汚染調査 野帳



市民放射能測定データサイト  
みんなのデータサイト

【★は、記載必須項目】

★採取日	2019年 月 日	★採取者氏名 メールor電話	
★氾濫河川名 (本流&支流)		★どんな場所で、どのように採取したか？	
★採取地点名			
★緯度経度 10進法で小数第6 位まで記載	N: 緯度(例: 35.696624)	E: 経度(例: 139.481350)	
↳ 緯度経度測れない方は、詳細住所を記載			
★泥の厚み	約 cm の厚み	★採取面積	cm × cm
★採取量	要チェック⇒ <input type="checkbox"/> 150mL以上あることを確認しました。 ※詳細にわかる方は記載⇒		mL
空間線量率	(1m) $\mu\text{Sv/h}$	(5cm)	$\mu\text{Sv/h}$
(機種名)			
現場地図:	写真:		

## ■水害土壌調査の意味

この調査は、従来のみんなのデータサイトの土壌調査とは異なり、台風19号で氾濫した河川からもたらされた泥の放射能汚染調査となります。水の移動によって、放射能がどれくらいどこに移動したのかを調べるものです。阿武隈川、阿賀野川、秋山川、那賀川、千曲川などを中心に、17都県全域を対象とします。従来の「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」とは、土壌の採取方法が異なります。下記を必ず読んで、採取の実施をお願いします。

## ■氾濫泥土の採取方法

### 【準備するもの】

●園芸用の移植スコップまたはステンレス製大型スプーン ●丈夫なビニール袋(2枚) ●容量の量れる容器 ●緯度経度を調べられるスマホ、パソコンなど (以下、ある方は ●カメラ ●空間線量計)

### 【サンプリングする場所】

舗装路面、床上浸水した住居の床やたたきなど、汚染泥を確実に採取できる場所とします。砂には放射能は沈着しないので、粘土質の泥を探してください。氾濫時に激しい流れがあった場所は砂が多いでしょう。流れが無く、ゆっくりと濁質粒子が沈殿した場所がベターです。泥は出来るだけ乾いたものをお願いします。無理ならば若干の水分を含んでもよいです。市民放射能測定室へ搬入後に、含水率を測定して、乾重量当たりに補正します。

### 【採取方法】

- 1) 泥を、150mL以上採取してください(150mLは、湯飲み茶わんやプリンカップの量が目安です)。容量のわかる容器に、丈夫なビニール袋をかぶせて、そこに泥を入れていくのが、一番簡単な方法です。
- 2) 採取した泥の厚みと面積をおおよそでよいので、記録してください。
- 3) 採取地点の名前を、地名を入れて任意で記載してください。
- 4) 緯度経度の記録をお願いします。公開する際は、小数第3位=誤差100m程度のデータに致します。緯度経度がわからない場合は、詳細な住所を記載してください。
- 5) サンプルは取り違えが起こらないよう、2重のビニール袋に入れて、1重目と2重目の間に、野帳に記載した「採取地点名」を書いた伝票(メモ)を入れてください。
- 6) 土壌と野帳をセットにして、下記測定室宛に送付ください(送料のみご負担ください。測定費は無料です)。
- 7) 下記に測定室の連絡先記載がない場合は、minnanods@gmail.comにて送付先の確認メールをお送りください

### 【任意事項】

採取現場の地図の記載と、写真撮影および貼り付け、空間線量測定は任意です。